

集団補聴システム比較



	FM補聴	ヒアリングループ	赤外線補聴
使用用途	難聴者補助・老人性難聴補助 (福祉電波使用)	難聴者補助・老人性難聴補助・ (同時通訳)	難聴者補助・老人性難聴補助・ 展示ガイド・同時通訳・その他
使用エリアサイズ	小～大	小～中	小～中
利用方法※1	専用受信機 Tモード付補聴器 (インダクター使用)	専用受信機 Tモード付補聴器	専用受信機 Tモード付補聴器 (インダクター使用)
設置工事	FM送信機を1～2台設置 2台設置で2階席ホールの全席カバー	ループアンテナを床下へ埋設するため 追加 (改修) 工事は困難な場合が多い エリアが広くなるとケーブル敷設が大変	赤外線ラジエータを1～4台設置 エリアが広くなるにつれて 複数のラジエータが必要
工事費	一般的なワイヤレスアンテナの設置と同じ	ループケーブルの敷設方法及びエリアの 広さにより大きく変わってくる	ラジエータの数量により変化あり
メンテナンス	容易	ループケーブルの入れ替えは困難	ラジエータの設置場所による
外来影響	受ける可能性がある	受けやすい	ほとんど受けない
仮設利用	可	仮設専用有り	可
長所	受信状態が一番安定している 施工が一番簡単 ホール等の大規模空間で座席が自由 法律で周波数が決められている	Tモード付補聴器の利用者はスイッチを 切り替えるのみで使用可能	音質のクオリティーが高い 隣接した部屋などで利用するのに良い 外部音漏れ・盗聴の心配なし
短所	補聴援助使用に限定されている	デッキプレート床の場合は、出力が低下 隣接エリアに漏洩する 受信機の持ち方によって音質変化 Tモード付補聴器の利用者はごく僅か	人や物が壁になると音声途切れる 他の赤外線システムと干渉する 屋外使用不可
費用※2	中	小～大	小～大

※1 Tモード付補聴器の聞こえやすさはどの方式も同じ。

※2 試聴エリアが広がると概算費用はFMシステムが一番安い。